

## これでみんな幸せ

神奈川県 西中学校 3年 渡部 萌々香

今、小田急線に乗っている。久しぶりに母と二人で海老名に買い物へ行く。テスト明けの私に、気晴らしに出かけようと母からの誘いがあったからだ。本当は、テスト前に録り溜めてあった録画を、家でゆっくりと見ていたかった。しかし、母が私を気にかけてくれたんだからと、少ししぶしぶではあったが出かけることにした。

帰ったら、なんの録画を見ようか考えているうちに海老名に着いた。休日だったこともあり、とても混雑していた。たくさんの人であふれる中、いろいろなお店を回り、楽しんだ。

夕方になり、そろそろ帰ろうかと母と駅に向かった。帰宅しようとする人の波が駅をあふれさせていた。切符売り場も長い列ができていた。私と母も、チャージをしようとその長い列に並んだ。ようやく私たちの前にいる80代くらいのおばあさんの番がきた。

そのおばあさんは、上を見上げたまま動かない。なにか小声で言いながら、ずっと上を見上げている。見ている先には、運賃表があった。どうやら行き先の料金を探しているようだ。上を見るのが終わったと思ったら、今度は発券機を見たまま動かない。私は、長く列で待っていたせいか、困った人だなと思いながら、少しイライラしてしまった。

そのとき、隣にいた母がそのおばあさんに、

「どちらまで行かれるんですか？」

と声をかけた。おばあさんは驚いた顔で振り返り、

「すみません。伊勢原まで行きたいのですが、切符をいっしょに買ってもらえますか？」

と言った。母は伊勢原までの切符を手ぎわよく買い、おばあさんに、

「お気をつけて。」

と言いながら切符を渡した。おばあさんは、とても恐縮しながら何度も何度も「ありがとう」と頭を下げて、去っていった。ほっと落ち着いた私に、母が、

「これでみんな幸せ。」

と言った。私は、

「みんな？」

と疑問に思った。私は、切符を買えたおばあさんが幸せとだけ思っていた。すると母は、

「おばあさんは切符が買えて幸せ、ありがとうと言ってもらえた私も幸せ、後ろに並んでいた人も待ち時間が少し減って幸せでしょ。」

と言った。たしかにその通りだと思い、その母の考えに私も幸せになった。

今日は、母と二人で来てよかった。テストの気晴らしどころか、心が温かくなった。しぶしぶだった気持ちを反省しつつ、たくさん母と話をしながら、帰り道を楽しんだ。